

行政事業レビュー公開プロセス(6月14日)

(事業名)都道府県がん対策推進事業

評価結果	事業内容の一部改善
------	-----------

廃止	0	人
事業全体の抜本的改善	1	人
事業内容の一部改善	5	人
現状通り	0	人

<とりまとめコメント>

- ・ 本事業のメニューについては、予算額と執行額に大幅な乖離があることから、特に執行率が低い事業、例えば、「がん登録の推進事業」については、今後がん登録制度の施行が本格化することを踏まえ、現場における登録の進捗状況や自治体における実施体制の課題把握・分析を十分に行うなど、執行率低調の要因分析や課題を精査し、メニューの立て方や各メニューへの予算配分の見直しを行うべきである。
- ・ また、本事業の成果目標は「がんの年齢調整死亡率」とされているが、本事業には様々なメニューがあることから、各事業の目的や内容により一層即した成果目標を設定すべきである。
- ・ 以上の見直しを行いつつ、より効果的・効率的な事業となるよう、補助要件の見直しや予算規模の適正化を図るべきである。

<具体的なコメント>

○事業の課題や問題点

- ・ 執行率の低調さ(6メニューの執行率の高低さ)。
- ・ 各都道府県が実施する事業ニーズが汲み上げられていない。
- ・ 実態と乖離した予算となっている。
- ・ がん治療の均てん化のために、情報の収集及び治療情報の提供は、極めて重要であり、より実効性のある手段・方法を検討すべき。
- ・ 都道府県は、国の補助メニューがあるため事業実施するというよりは、都道府県のがん対策推進計画に基づいて事業実施をしており、その中で国の補助があれば、申請するという考え方になっている。

- ・メニューが細かすぎる。
- ・事業内容とアウトカムの因果関係が明らかでない。
- ・性質の異なる事業が混在しているのに対し、全体的なアウトカムが設定されているのみなので、成果検証が困難。
- ・執行率が高い事業の予算を増やし、低い事業の予算を減らすという対応が本当に妥当か検証が必要。効果が低いが、事業を実施しやすいために執行率が高いのだとすれば、予算を増やすべきではない。また、必要な事業であれば、執行率が低くても安易に予算削減で対応すべきでない。

○評価を選択した理由・根拠

- ・各メニューの見直しの方向性が、予算額と執行額が一致すること(執行率100%に近い状態)を期待する。
- ・ニーズに即した事業の充実を図って欲しい。
- ・がん登録を着実かつ効率的に進めるための施策が必要。
- ・本事業の主旨を明確にし、アウトカムを整理した上で、実施すべき事業内容を見直すべき。
- ・都道府県の事業に合う補助にするため、補助メニューを大括りにすべき。
- ・成果目標・評価を事業ごとに分ける方向性は評価できる。

○改善の手法や事業見直しの方向性

- ・これまでの執行額をベースとした予算額を設定すべき。
- ・各メニューごとの予定数量を正確に把握すべき。
- ・義務化された「がん登録」は必要な予算が確保されるよう、まずは自治体での積算を精緻化し、かつ国として適切に把握して予算化すべき。
- ・がん登録は、今後も継続することから、効率化が重要であり、負担となっている紙媒体での情報収集からオンライン登録をするために重点的に予算をつけるべき。
- ・相談体制の充実に向け、都道府県も現場のニーズを調査し、必要な施策を企画・予算化すべき。
- ・アウトカムの見直し案があるが、患者・家族・職場のケアや満足度も指標に入れてはどうか。
- ・本事業の執行内容を検討し、その目的を達成するための方策に見直すべき。

- ・ 補助メニューをもう少し大括りにして、より都道府県が使いやすくなるよう工夫すべき。
- ・ がん登録の均てん化を更に促進すべき。
- ・ 事業内容ごとに細分化し、適切なアウトカム指標を個別に設定すべき。
- ・ 細分化された事業ごとに都道府県側の需要を精査し、適切な予算要求につなげるべき。
- ・ ここまで柔軟な運用でよいのか。本当は必要な事業だが、難しい事業が後回しにならないようにすべき。

○その他

- ・ がん検診の受診の有無と死亡率の関係の資料は初めて見た。とても素晴らしい資料であり、今後広めていきたい。